

# 2026年度予算について

学校法人東京理科大学理事会

これまで増加傾向にあった大学進学者数が、2026年を境に減少へ転じる「2026年問題」や、経済環境の不確実性の高まりなどを背景に、日本の大学を取り巻く状況は一層厳しさを増している。このような環境下において本学は、2026年度を2031年の創立150周年に向けた大きな挑戦の年と位置づけ、33年ぶりの新学部である「創域情報学部」の設置に加え、日本で初めて“科学コミュニケーション”の名を冠する「科学コミュニケーション学科」を設置するなど、社会からの期待に力強く応えていくための体制基盤の整備・強化を進めていく。

2026年度予算については、安定した財政基盤を維持するため、教育活動収支差額および経常収支差額のプラス維持を前提としたうえで、教育研究環境の一層の充実を図ることを目的として予算編成を行った。

## 1. 教育研究の充実

- (1) 学部等配分予算、機構配分予算、教育・研究重点化配分等の教育研究費
- (2) 高等教育の修学支援新制度による授業料減免に伴う奨学金、新生のいぶき奨学金、乾坤の真理奨学金、冠付奨学金等の給付型奨学金
- (3) システム、施設設備の維持管理費用等

## 2. 施設等環境整備の充実

- (1) 神楽坂地区においては12号館周辺の整備、施設設備の改修等
- (2) 野田地区においては薬学部移転後の跡地改修等
- (3) 葛飾地区においては図書館ホール音響機器更新、LED改修等
- (4) 長万部地区においてはボイラー更新、施設設備改修等
- (5) 情報システム関係では学内クラウド基盤の更新等

## 3. 人件費への対応

- (1) 学部再編に伴う教員数の増加や人事院勧告対応を踏まえた予算措置